

建造物詳細調査概報

— 武田塾木造塾舎 —



2000年3月

柏原市教育委員会



はじめに

関西本線高井田駅から史跡高井田横穴公園に向かう時、三角屋根の木造塾舎がいつも私達を迎えてくれていました。周辺の豊かな木々の間から見える塾舎には懐かしさと落ち着きを感じたものです。また時折聞こえてくる子供たちの明るく楽しそうな声は、不透明な世の中にあって大きな救いになるものです。子供を大切にするという基本理念が、武田慎治郎氏以来、忘れられることなく常に実践されていることを実感する瞬間です。そして保管されていた多くの貴重な資史料からは、物を大切にする純粋な気持ちが伝わってきます。施設の移転により残念ながら塾舎は姿を消しましたが、これらが地域史の一端をより鮮明に物語ってくれるものと確信しております。

今般の建造物詳細調査に際し、ご快諾いただくと共に数々のご配慮を賜りました社会福祉法人武田塾の各位に感謝申し上げます。

柏原市教育長 舟橋清光



旧武田塾調査概報発刊によせて

武田塾創設者・武田慎治郎先生は、大阪府警視・曾根崎警察署長本務のまま大正2年7月、府立修徳館（現・府立修徳学院）の事業立直しのため修徳館顧問に就任、同年11月には二代目館長に就任され後半生を少年教護に打ち込むことになりました。

修徳館で実践された少年教護事業をライフワークとされ、退職後の大正15年11月に自らが理想とされた小規模な家庭的感化施設である「武田塾」を開設されました。

爾来70有余年の間には、児童福祉法制定による児童養護施設への事業運営変更、児童入居棟の増築等変遷はありましたが武田慎治郎先生が開設された当時の武田塾の建物は、大正ロマンを彷彿とさせる建築様式でその建物を「記念館」として、武田慎治郎先生の遺品等をそのまま残していました。しかし、時代の開発の波が武田塾の周辺にもおよび、また武田塾そのものが手狭になったため移転新築が決定いたしました。

時を同じくして、大阪府教育委員会を通じて柏原市教育委員会が、文化財保護の立場から近代和風建築のひとつとして、旧武田塾「記念館」が調査対象となりました。

調査が進むにつれ、由緒ある建物で保存できないものかと、市教委の関係者が大阪府、柏原市にも働きかけて下さいましたがそのことは実現出来ませんでした。ここに「調査誌」として発刊の運びとなり武田塾の歴史が冊子に末永く残ることになり、武田塾関係者の一人として喜びとするところです。

「武田塾」は、平成11年8月に河内嵐山と歌われる景勝の地を真向かいに、青山台台地に新築移転いたしました。この新しい児童養護施設・武田塾に開設当時の建物の資料、武田慎治郎先生の遺品等を展示している資料室を設けています。是非来塾下さり当時の「武田塾」に思いを馳せて下さい。

武田塾施設長 光永 茂

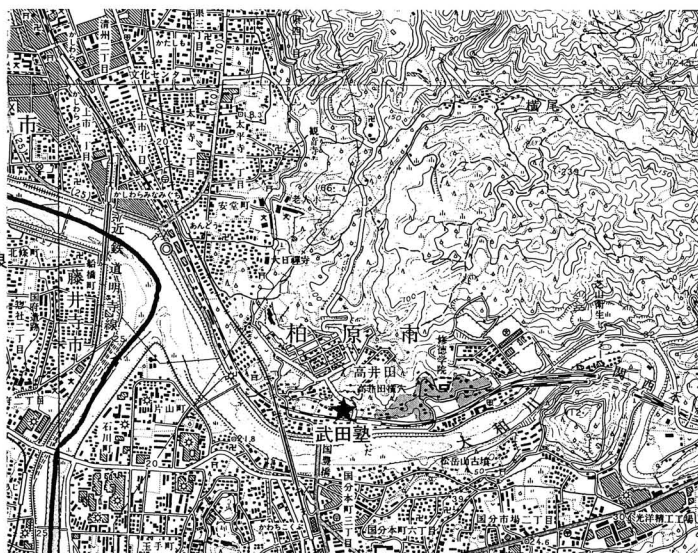
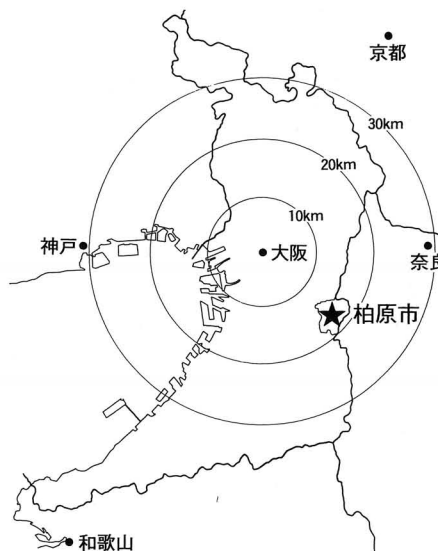
例言

- 1、本書は1999年度に柏原市が市単独事業として実施した「建造物詳細調査」の概報である。
- 2、調査対象は、柏原市高井田所在社会福祉法人武田塾の木造塾舎2棟である。
- 3、調査は柏原市教育委員会が実施し、建物の実測、図面の作成については株式会社浅野建築設計事務所（大阪市中央区）に委託した。
- 4、本書の作成にあたり、武田塾 光永茂、細見久視、浅野建築設計事務所 石井賢一の各氏から玉稿を賜った。編集は柏原市教育委員会 石田成年が担当した。
- 5、調査の実施、関連資料の収集等にあたり多くの方にご高配、ご指導を賜った。記して謝意を表します。（順不同、敬称略）

- ・社会福祉法人武田塾 伊藤順雄 山崎清 光永茂 細見久視
- ・(株)浅野建築設計事務所 浅野秀隆 石井賢一 ・(株)三栄建設 村上興寛 白杉正毅 山本健治
- ・(株)ドキュメンタリー工房 野崎朋未 ・神戸市立博物館 三好唯義 田井玲子 前田佳久
- ・西宮市立郷土資料館 西川卓也 合田茂伸 ・松原市教育委員会 芝田和也 岡本武司
- ・日本郵船歴史資料館 飯窪秀樹 ・松浦龍助 ・平谷宗隆 ・河合利昭 ・竹下賢

目次

1、調査の経過	1	(石田)
2、武田塾の歩み	2	(細見)
3、建物	5	(石井)
4、所蔵資料	17	(石田)
5、まとめにかえて	22	(石田)



武田塾の位置

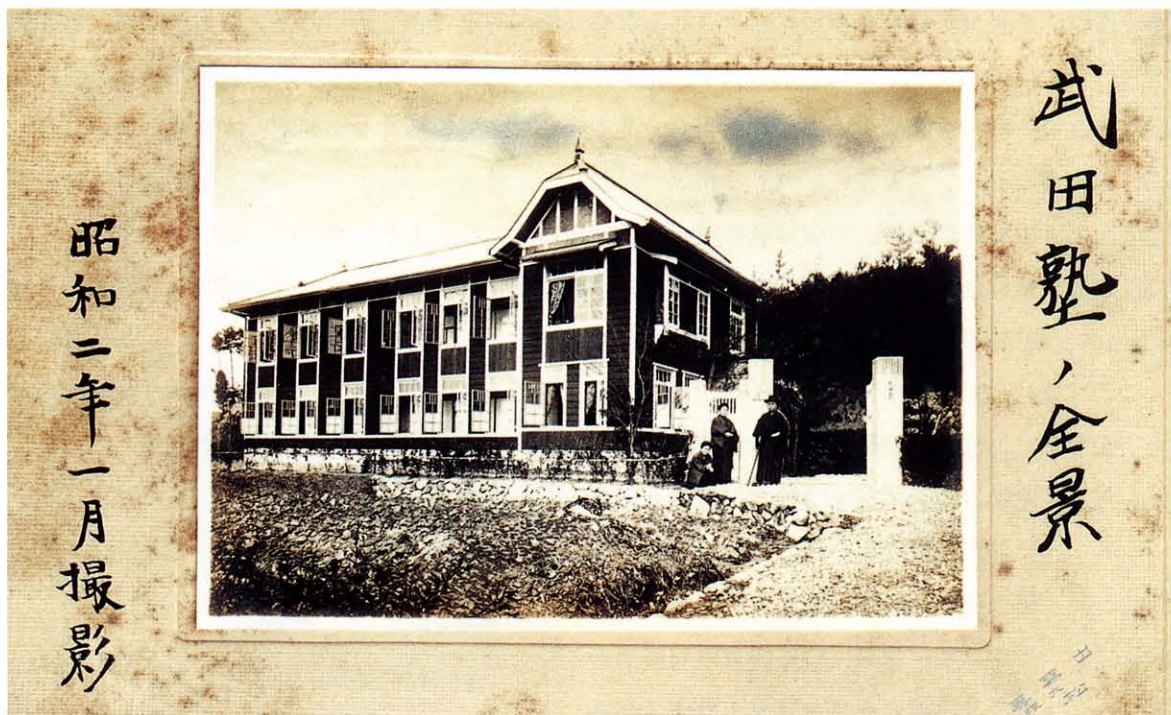
1、調査の経過

社会福祉法人武田塾は、大阪府立修徳館（現在の修徳学院）の館長であった武田慎治郎氏により大正15（1926）年11月に創立されました。創立時に建築された旧館や、のちに建てられた厚生館（焼失）、積善館等の木造塾舎は、急激に景観が変化した高井田地区にあって、独特の落ちついた雰囲気を持っていました。第二室戸台風の被害による屋根の葺き替えや一部窓枠のサッシ化等、手を加えられてはいるものの、ほとんど建築当時の姿を保つ希少価値の高い建物であると評価されました。しかし1998年事業拡大等々の理由により現在地から東北約700mのところへの移転が決まったことに伴い、旧館、積善館も撤去されることとなりました。

そこで関係者と建物の処遇についての協議や調査の実施について調整した後、将来的に活用できる記録を残すことを目的として、外観や内部の詳細な写真、精緻な図面等を作成する調査を1999年5月11日に開始しました。また所蔵資料の調査も合わせて行い、多くの貴重な資料の存在が確認されました。所蔵資料の一部は寄贈あるいは寄託を受けており、資料として活用できるよう整理を進めています。

施設が1999年8月上旬に移転した後、建物は9月中旬に解体撤去され、73年に及ぶこの地での使命を終えました。

また今回の調査と並行して、1998年5月からは事業期間2ヶ年を要して文化財保存対策策定の基礎資料作成を目的とした「近代和風建築総合調査」が大阪府教育委員会により府内一円で実施され、武田塾の木造塾舎も対象物件となりました。さらに細かなデータが必要であるとして翌年6月には2次調査が実施されています。



武田塾全景

2、武田塾の歩み

武田塾の事業は、創始者武田慎治郎氏により、小規模な家庭的感化施設を経営するために開始されました。

大正11（1922）年12月、中河内郡堅下村大字高井田669番地（現在の大阪府柏原市大字高井田669番地）に246坪の土地を当時3,553円60銭で購入し、さらに大正15（1926）年5月に大阪市浪速区霞町1丁目の橋本組の請負で塾舎の建築に着手しました。同年10月には工事費1万6,790円77銭をかけて、木造スレート葺2階建、114坪6合2勺の本館及び木造トタン葺6坪の納屋が完成しました。

そこで、大正15（1926）年10月26日付で武田塾の設立認可書を大阪府に提出するとともに、同年11月4日にまず児童1名を収容し、事業開始となったのです。武田慎治郎59歳のことです。



武田慎治郎氏

設立認可申請書には、大阪府知事 中川望宛に下記の様に記載されています。

一、目的 不良児童の感化教育及びその他一般児童の教化に関する施設

二、名称 武田塾

三、位置、敷地及び建物に関する重要事項

位置は大阪府中河内郡堅下村高井田667番地の2・668番地の1・669番地にして面積246坪を有す、建物は2階建木造にして建坪階下63坪8合4勺・階上50坪7合8勺、延坪数114坪6合2勺、納屋1棟木造6坪敷地・建物共に設立者の所有なり。

四、管理及び維持方法

塾主夫婦監督の下に職員2名を置き家族的組織に依り管理し、入塾生は年齢12歳以下の児童にして12名以下とす。経費は児童保護者より徴収する学謝、基本金より生ずる利子、設立者（塾主）の出資金及寄附金を以て維持す。

五、事務員たるの資格及任免に関する事項

職員は教育上の資格及経験ある者を採用し、塾主之を任免す。

この申請書により「大正15年10月26日申請武田塾設立の件認可す。」として昭和2（1927）年5月18日、大阪府知事 田辺治通氏の認可を受けました。

これに伴い、武田慎治郎塾主は「武田塾々則」を下記の様に作成し経営基盤を徹底しました。

第一項 本塾は境遇又は心身の欠陥に因り家庭に於て教護困難なる児童を引受け、家庭に代わり教護を為すものとす。

第二項 本塾は第一項事業の外塾舎の利用上差支なき限度に於て、児童の教化に適切なる施設を為すものとす。



学習風景

- 第三項 入塾を希望するものは保護者に於て本人同道出頭し検定を受くることを要す。
 検定の結果入塾せしめんとするときは、本塾所定の依頼書に戸籍謄本を添付し差出すことを要す。
- 第四項 塾生保護者は本塾の教養方法に一任することを要す。
- 第五項 塾生の保護者は本塾所定の学謝及治療費を負担することを要す。他だし保護者の資力の依り本項負担の全部又は一部を免除することあるべし。
 他の学校に通学せしむる場合は前項の外其通学に要する費用を負担することを要す。
 第一項の学謝は前納することを要す。
- 第六項 本塾に於て塾生を退塾せしめたる時は保護者は遅滞なく引取ることを要す。
- 第七項 本塾は第二項の施設として随時左の事項を行うものとする。
 一、不就学児童の教育
 二、講演会
 三、図書縦覧
 四、娯楽会
 五、児童教養の相談
 六、その他児童の教化上必要と認むる事項
- 第八項 本塾の経費は学謝、基金の利子、寄附金及塾主の出資金を以て之に充つるものとする。
- 第九項 本塾に対する特志的寄附金は寄付者の意思に基き經常費に使用し、或は基金として積立て置くものとする。
- 第十項 本塾は適當の時期に於て財団法人の組織と為さむとす。此場合に於ては本塾の資産を生産し残資金は之れを法人に引継ぐものとする。



食事風景

これら武田塾々則十項は時代背景は異なるのですが、その当時から先見の明を持ち、現代の児童福祉哲学の基盤をすでに形成していたと言っても過言ではありません。

また昭和3（1928）年5月には入塾に関する6項目を下記のように上げ、精神面の訓育を目的として入塾するもののほかに、身体の鍛錬がおもな目的である修養生（虚弱児童）をも収容することになりました。

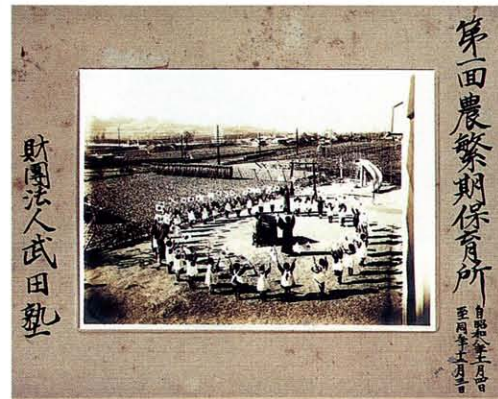
- 一、児童は満12歳以下の男子たること。
- 二、当塾は早期教育を目的とす。従て不良の程度は初期に属するものたること。
- 三、又不良の原因は主として境遇に存するものたるを要す。従て強度の性格異常児又は精神薄弱児にあらざること。
- 四、入塾を希望するものは保護者より、保護者及児童の素行境遇に関する経歴書及体格に関する診断書を添へ、前以て当塾へ照会を為すこと。
- 五、大阪府以外の場合に在りては、大阪府在住者の保証人を要す。
- 六、塾則第五項の学謝とは食費に相当す。故に教育費は塾主の負担とす。

以上のように、昭和2（1927）年5月に「武田塾々則十項」、昭和3（1928）年5月には入塾に関する6項目を掲げられ開始された武田塾も、昭和2（1927）年5月から2年と10ヶ月後の昭和5（1930）年3月には、武田慎治郎63歳にして総資産2万7,700余円を提供して、内務大臣より財団法人武田塾の設立認可が認められました（「武田塾々則十項」の第十項を達成）。当初、塾主ならびに理事長に武田慎治郎氏が就任し、また武田慎治郎氏は妻ヒサ及び養女のきしを理事に推薦しました。そして他、評議員9名にて構成し、事業の安定をはかりました。

その後、昭和8（1933）年10月に拡張する隣保事業を軌道に乗せるため、平屋建て37坪2合5勺の厚生館を設立し、同年11月には農繁期保育部をも開設し、同年12月には武田塾小学部（私立小学校）の設置を大阪府知事より認可されました。

この年、武田慎治郎氏66歳にて三事業を達成しているのです。

そして、昭和11（1926）年4月娯楽施設に恵まれな
い高井田地区の青年を主な対象に、階下を青少年の修養娯楽場、階上を小学部教室に充てる、敷地面積62坪、2階建て延べ58坪8合5勺の木造スレート葺を4,100円で建設しました。武田慎治郎氏69歳でのことです。



園庭での遊戯



積善館風景

そして4年後の昭和15（1940）年2月26日春の訪れを見ず、享年73歳で創設者理事長塾主武田慎治郎氏は永眠されました。

その後は第二代理事長に養女の武田きしが昭和15（1940）年4月に就任されました。

以後、社会情勢に伴い昭和23（1948）年には児童福祉法による児童福祉施設への変更など数々歴史を辿りますが、現在の児童養護施設武田塾の理念には塾主武田慎治郎氏の主旨が今もなお息づいているのです。

3、建物

外観でまず気付くのが、下見板を巡らせた壁です。札幌の時計台と同じ様式です。明治以降、西洋風の建物を建てる際、日本のあちこちで採り入れられたデザインです。この武田塾旧館が建てられたのが1926（大正15）年。当時は言わずもがな、今でもハイカラなイメージがします。また、木の持つ「温かさ」が児童養護施設にうってつけではないか、と思えます。漆喰や土壁の建物が点在していた当時の風景を想像すれば、ずいぶんモダンな外観といえます。

建物の正面には、縦方向の線を強調する窓が規則的に配されています。深いブラウンの外壁とのコントラストも鮮やかです。真壁造の柱と相まって、2階建てではありますが、すっきりと伸びやかな印象を受けます。水平方向のラインを刻む下見板と垂直方向に伸びる窓と柱、そしてダークブラウンと白の対比……形態と色彩がぶつかり合うことなく調和し、瀟洒な外観を構成しています。

下見板張りの外壁に勾配の急な屋根が乗っていれば、それこそアーリーアメリカンスタイルとなる訳ですが、そんな単純な屋根ではありません。切り妻、半切り妻、入母屋と実に多彩。おまけに棟先が一部跳ね上がってい



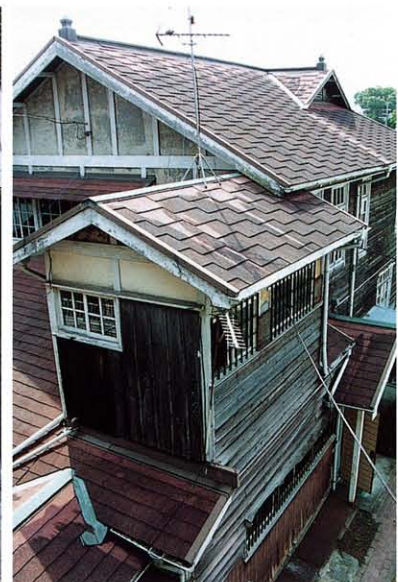
旧館



旧館西面



旧館点描



るところもあります。眺めている分には変化があって楽しいのですが、作った方の苦労は幾ばくなりか。それとも当時の大工らはこれぐらいの工事は朝飯前だったのでしょいか。腕が良かったことの証左になることは間違いありません。また、目を凝らして見てみると、軒の先端には飾りが座っています。お寺でよく見かける如意宝珠のようなデザインです。他の洋館で見受けられるそれと比べると形、大きさとも控えめですが、アクセントとしての役割は充分果たしています。建築当時には、先端がもっと尖ったものが使われていました。

下見板にしろ、多彩な形態を採り入れた屋根にしろ、効率優先の現代ではあまり見られない手間の掛けようです。うらやましい。

次に間取りに目を移すと、寝起きする部屋の殆どが南に面しています。当たり前のことですが、昔は空調機器に頼り切った今の建物の様にはいきません。いかにして暖をとるかが大事。特にこの地は信貴山の山すそだから、冬場の冷え込みは容易に想像できます。日差しの弱い冬でもより多くの暖を取り込もうということでしょう。窓に庇が無いのもそのせいでしょうか。通常は軒を深くして夏の強い日差しを遮るのですが、木々の多いこの辺りでは夏場でも風涼しく、通気を良くしておけば案外しのげたのかもしれない。そういえば、大きなクスノキも植えられていました。庇の代わりといったところでしょうか。



塾長室



2階賓客室



玄関から廊下へ



階段

内装は外観とは正反対で和風。床は畳か板の間、壁は真壁造の漆喰塗りの部屋もあります。磨き丸太をしつらえた床の間だってあります。立派なものだ。見上げれば、松丸太の太い梁が露出している箇所もあり、旧来の民家を思わせます。外観がアーリーアメリカン風なら、内部はジャパニーズスタンダード……月並みな表現ですが「和洋折衷」の構成になっています。洋風の生活様式が広く浸透したのは高度成長期以降のことです。当時の日本人の様に洋装はしていても、中身は和風そのまま、というのに似ています。

1999年に武田塾は、RC 3階建ての塾舎に移ったため、この旧館と積善館はその永い歴史に幕を下ろしました。こうした古き木造建築が姿を消していくのは、施設の関係者でなくとも寂しいものです。図面では伝わりにくい素材の質感や空気、空間を觀賞できなくなってしまいます。「調査だけでなく、移築してください」と申し出たいところですが……。



積善館玄関



積善館（左）と旧館



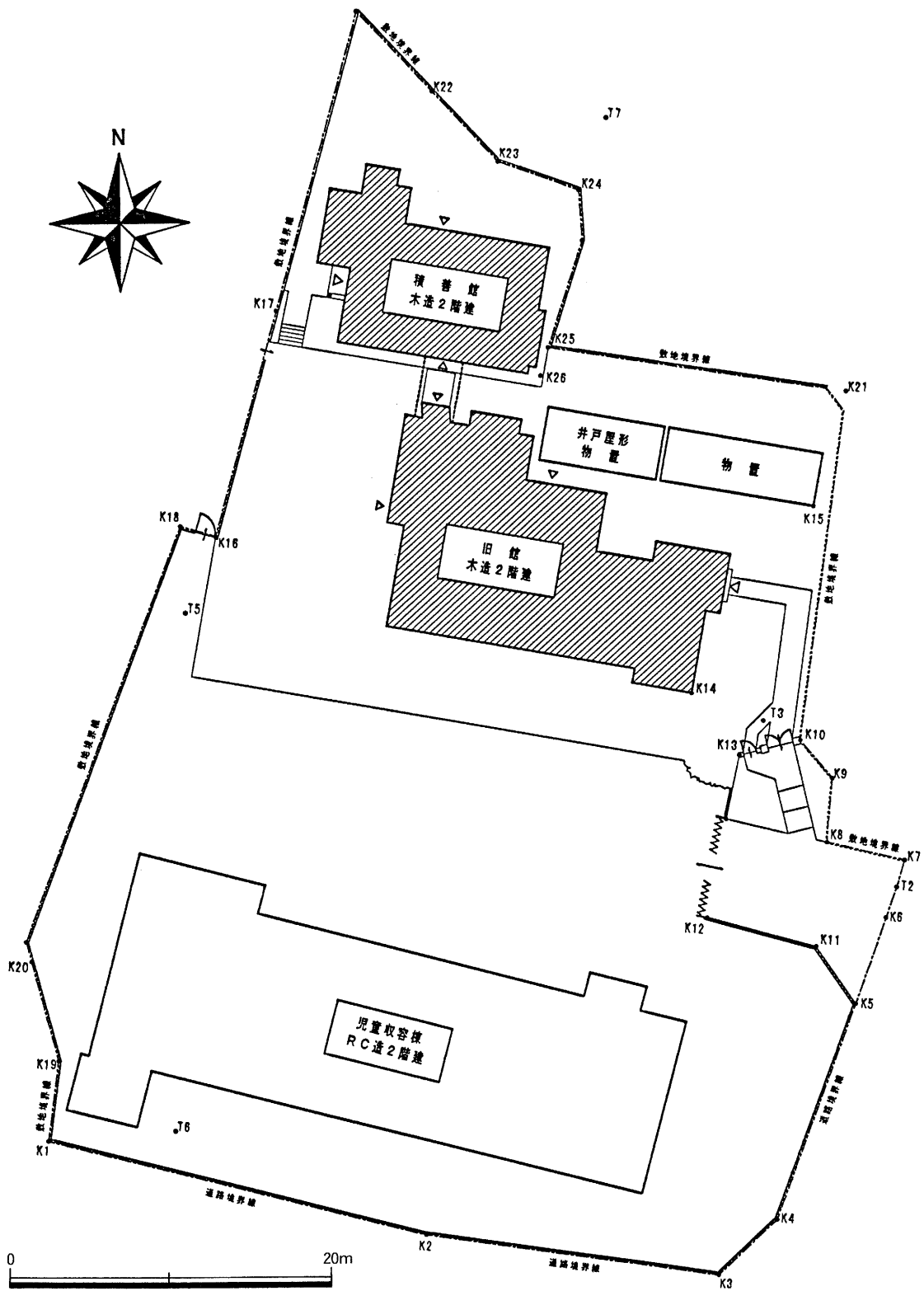
積善館娯楽室



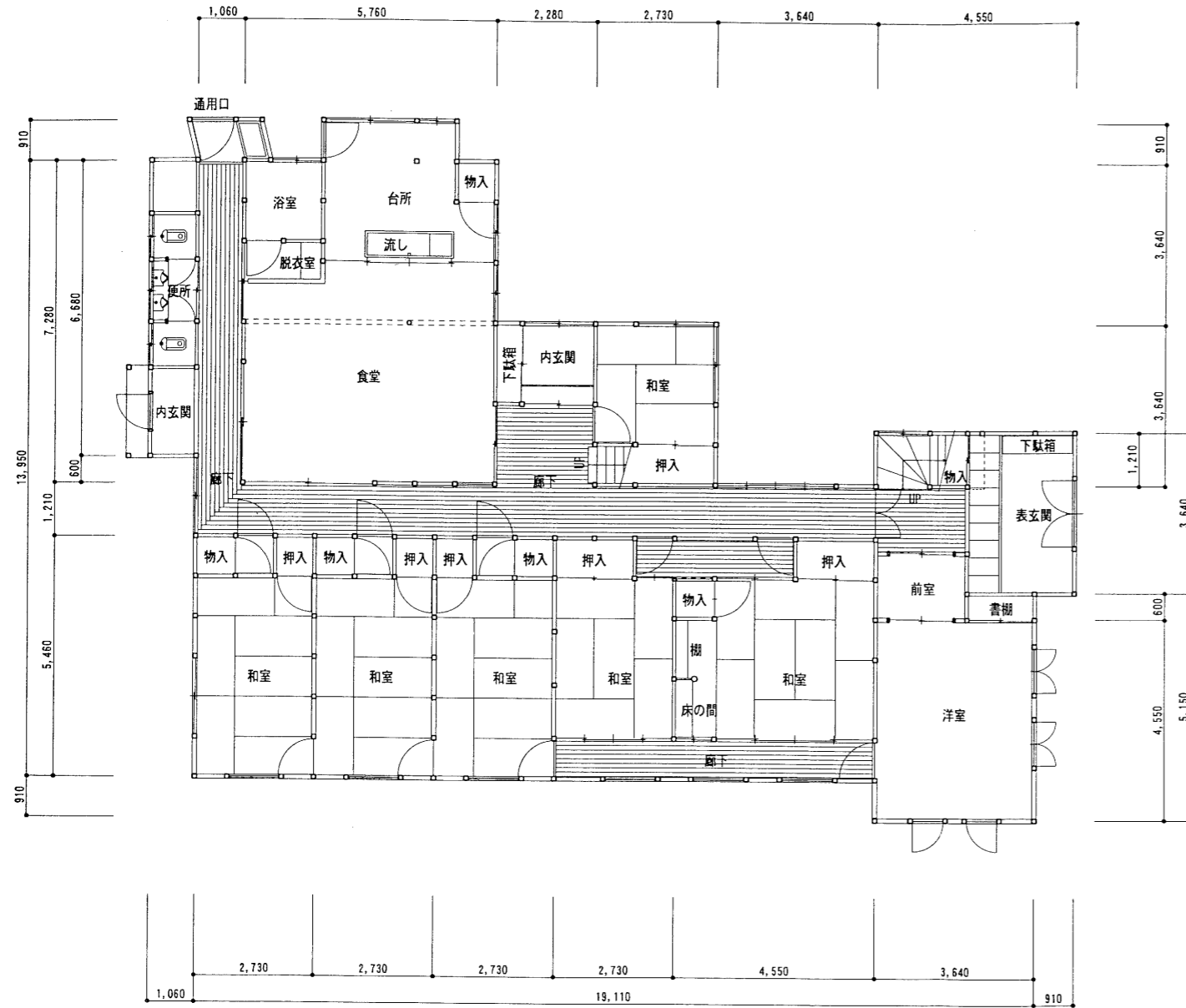
積善館ホール



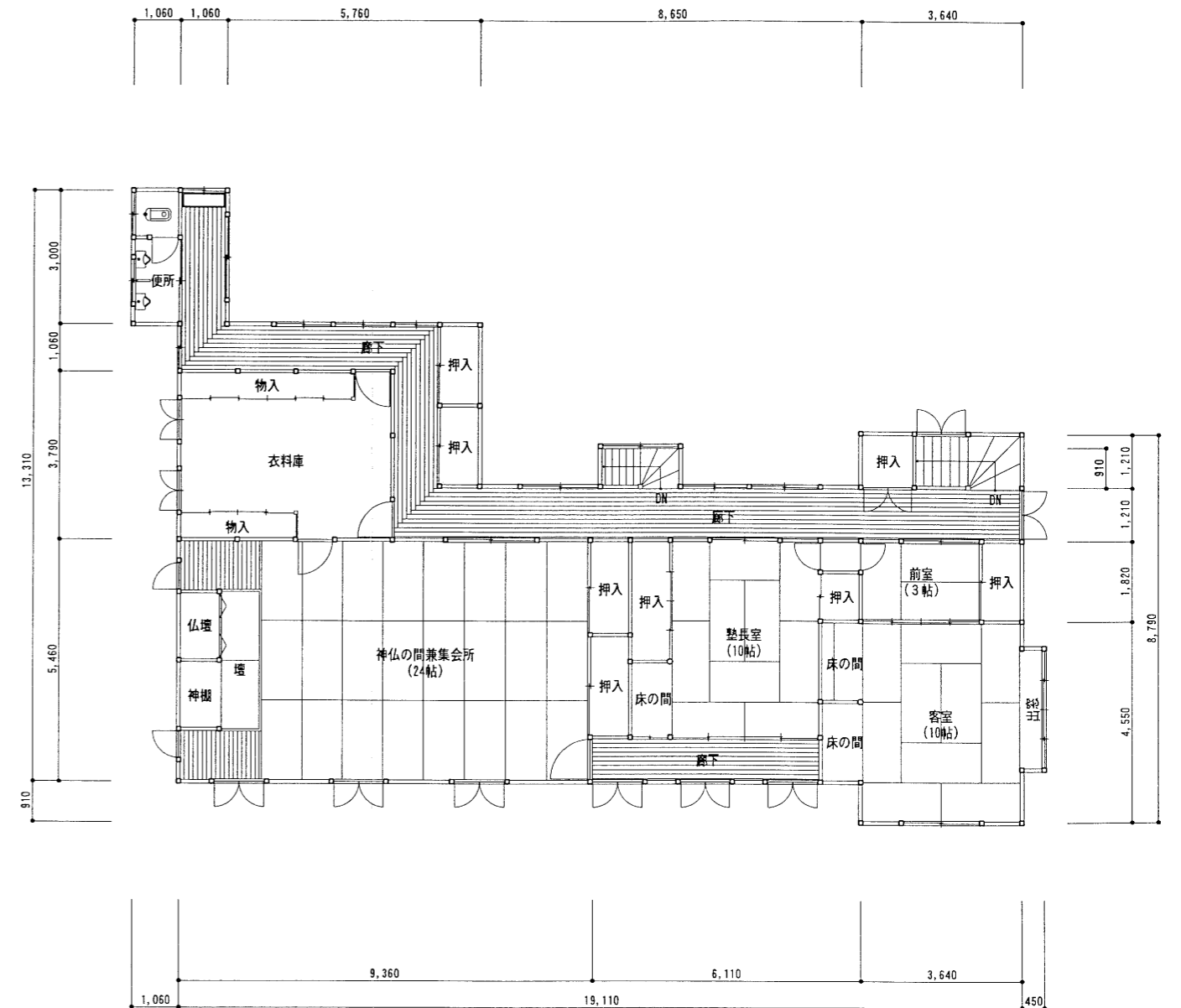
コンクリート製すべり台



建物の配置



1階平面図 S=1:100×0.7

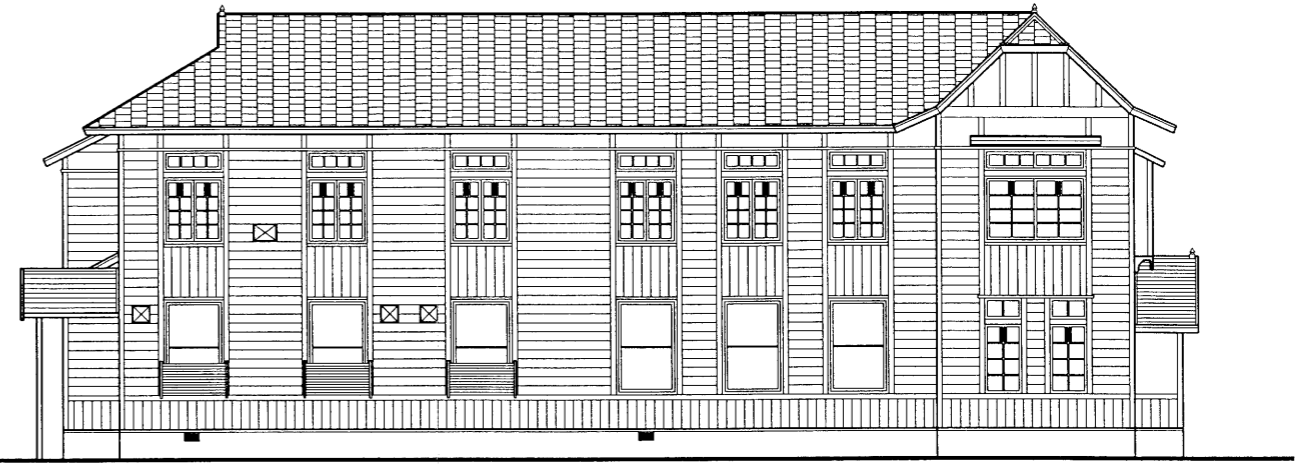


2階平面図 S=1:100×0.7

旧館平面図



西立面图 S=1:100×0.7



南立面图 S=1:100×0.7

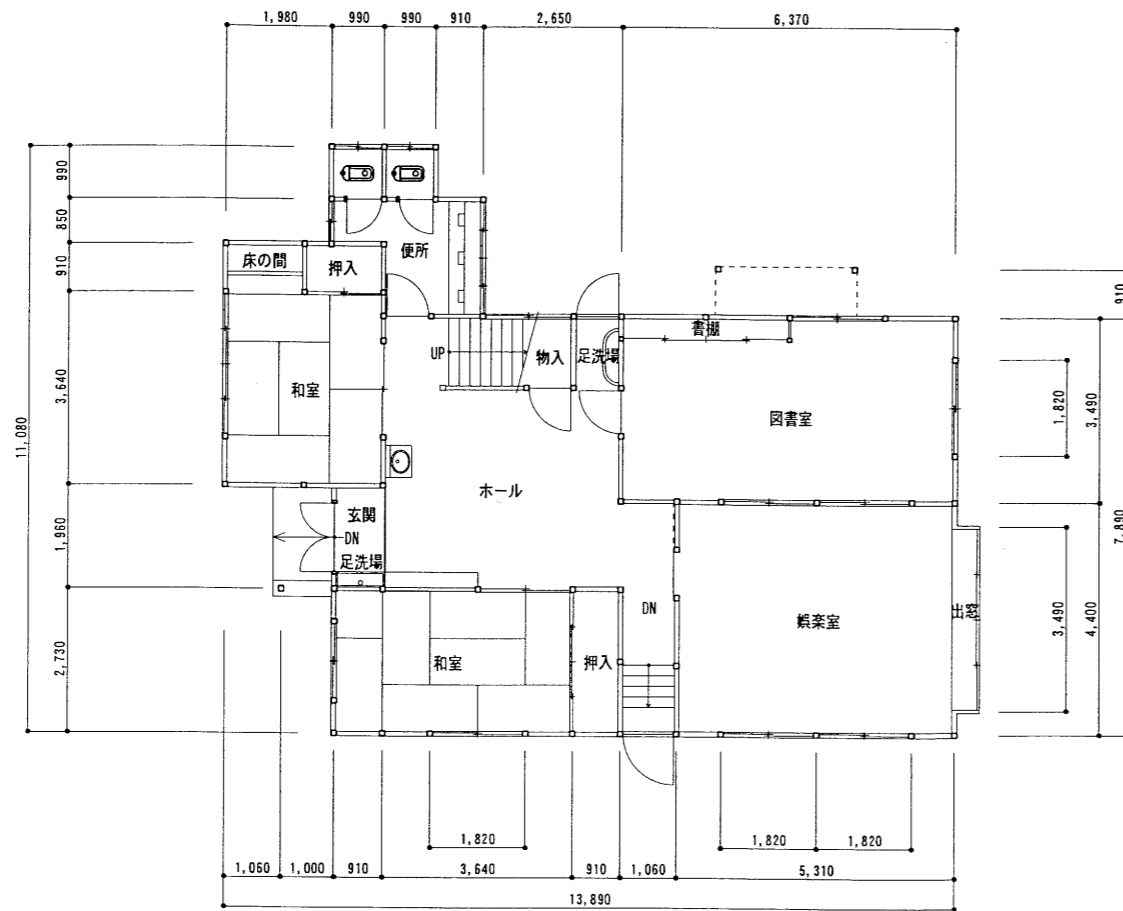


東立面图 S=1:100×0.7

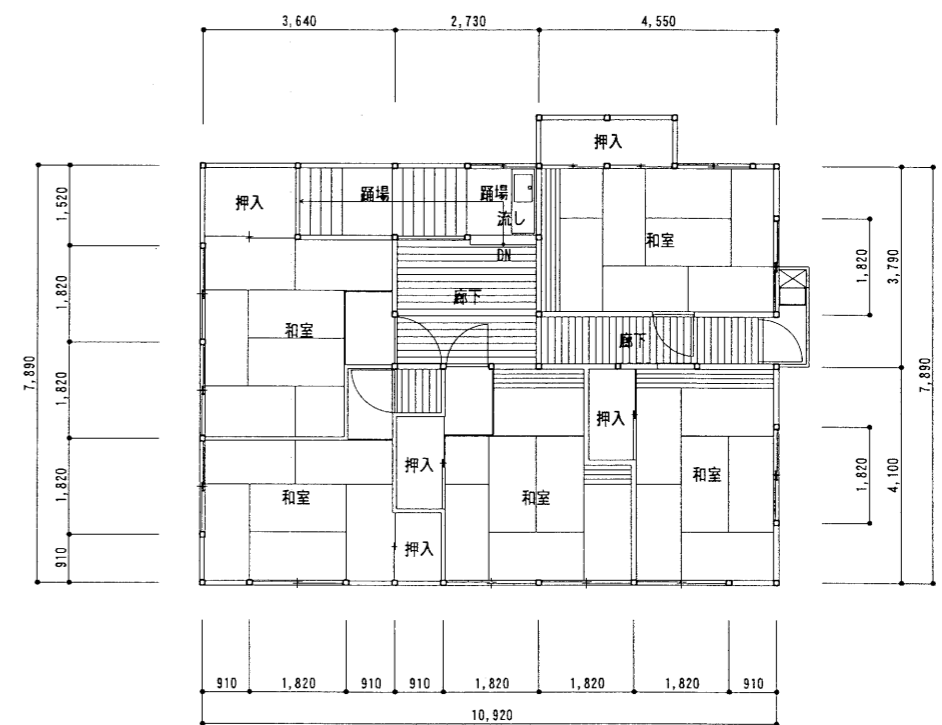


北立面图 S=1:100×0.7

旧館立面图



1階平面図 S=1:100×0.7



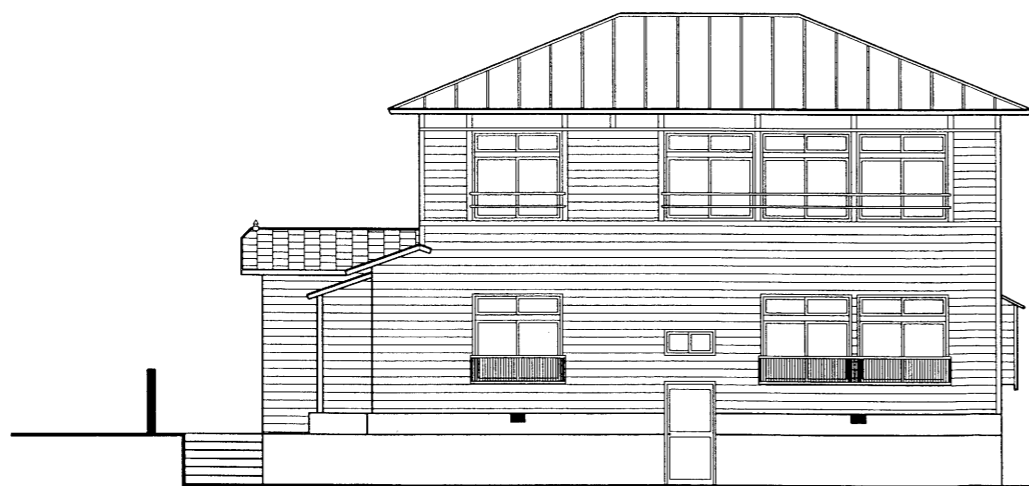
2階平面図 S=1:100×0.7



北立面图 S=1:100×0.7



西立面图 S=1:100×0.7



南立面图 S=1:100×0.7



東立面图 S=1:100×0.7

積善館立面图

4、所蔵資料

建物の調査とともに、旧館に保存されていた多種多様の資料の調査も実施しました。多少の傷みや変色、虫食いはあったものの、総じて良好な状態で残っていました。建物が木造で自然の理にかなった状態であったということと、それにもまして物を大切に使うという基本姿勢が塾の人々に受け継がれてきたことがその理由とされます。

「生活道具」は武田慎治郎氏、ヒサ氏の愛用品や塾創立時の物品がおもなものです。

「衣」に関わるものとして、卓上ミシン、炭火アイロン、伸子張り用具、折り畳み式や差込式の衣紋かけ、くけ台、山高帽と専用のケース、杖、傘、「大連 磐城ホテル」などのステッカーが貼られたトランク、ブリキ製の衣装箱、等々。

「食」に関わるものとして、「昭和16年（1941）7月11日」に「1円30銭」で購入した氷削器、ところてん突き、飯びつ、膳、小皿や椀などの食器、銀製スプーン等々。

「住」に関わるものとして、桐製や陶製の火鉢、炭入れ、陶製の湯たんぽ等の暖房器具。カメラ（海鷗 Seagull）、16ミリ映写機、幻灯機、レコード盤とレコード箱、手回し蓄音機等の映像音響機器。娯楽用に「昭和9（1934）年12月31日」に「三越」で「95銭」で購入したコリントゲーム（パチンコの祖型）や子供用のビリヤード台。ストーブ、五つ玉そろばん、オルガンは教室で使われていたのでしょう。

創立時からの「備品台帳」や「金銭出納簿」により「いつ、どこで、いくらで」買ったのかがわかるものもあります。さらに阪急百貨店や三笠百貨店の包装紙、大軌百貨店（現 近鉄百貨店上本町店）のせんべいの箱も残っていました。



左上：氷削り器 左下：映写機、レコード等 右上：ミシン 右下：ストーブ、椅子等

「16ミリフィルム」が4本みつかりました。昭和4（1929）年頃に撮影されたと思われます。音声のないいわゆる活動写真です。傷みが進んでおり、通常の方法では映写ができませんでしたが、株式会社ドキュメンタリー工房のご尽力によりビデオテープ化しました。

・『武田塾の全景』（6分48秒）

入塾風景に始まり、学習、食事、農作業、遊び等、塾の一日の光景が撮られています。記録だけでなく、塾を紹介する「プロモーション」のようなものだったのでしょうか。撮影は武田氏と親交があったと思われる『天川春吉』氏によるものです。

・『細田氏出帆』（2分30秒）

修徳館の教師であった「細田たけ」氏の渡米出航風景です。日誌により「昭和4年5月8日」に武田氏が「朝6時半に塾を出発し、神戸港まで見送り」に行った時の様子であることがわかります。見送りの人々の歓声と色とりどりの紙テープの中、「日本郵船」の「春洋丸」が神戸港の岸壁を離れていきます。翌年、細田氏から「1930 JAN 8 LOS ANGELS」の消印がある手紙が武田氏のもとに届いています。

・『不染会茸狩』（1分23秒）

10人ほどの男性が山に入り、茸を両手いっぱい抱えています。山中に設けられたテントの下で鍋に舌鼓を打ち、お酒も入って歌も出て、ちょっといい気持ちになっている様子が伺えます。「不染会」の内容は今のところわかりません。

・『劇映画 高山彦九郎』（4分53秒）

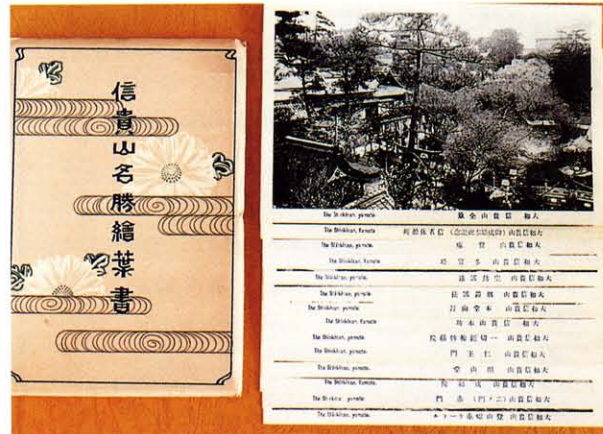
高山彦九郎は江戸時代後期に生きた尊王論者です。教材として使われたものと思われます。キャストやスタッフとして『高山彦九郎 片岡京十郎』『森嘉膳 船井莊輔』『編輯 賀古残夢』『撮影 田中十三』『現像焼付 伊藤富一』の名前がみられます。

「写真」は台紙に貼られた大判のものからベタ焼きまで含めて、636点が旧館の随所からみつかりました。明治20年代中頃から昭和の初め頃にかけて撮影されたものが中心で、武田慎治郎氏自身の経歴を示すもの、氏と親交のあった人々、修徳館の様子、武田塾の様子等、その対象は多種多様です。人物写真はかしまった記念写真が多くみられ、手軽に写真が撮れる現代と違い、人々の幾分緊張した表情にも「写真に写る」ことがどれだけ特別なことであったかがわかります。「いつ、どこで、誰を、何を」撮影したものが丁寧にメモをしてあるものもあり、写真に写った人物の服装や髪型、後ろに見える風景などの時代設定が容易にできます。時間的なデータは本来失われがちなものだけに、記されたメモは非常に貴重なものです。

また台紙の隅や裏面には、撮影した写真館や写真師の名前が記されています。当時の写真館が今も営業しているなら、原版が残り、人名や撮影日がわかるかも知れません。

当時の写真原版は現在のようにフィルムではなく、ガラスが使われていました。そのガラス乾板も103点残っていました。塾生の個人写真が主です。

「絵はがき」は195種965点を、「地図」は23点を数えます。武田慎治郎氏は地方への会議や講演に頻繁に出向いており、その際に旅行先で集められたのでしょうか。都市計画や戦災、自然災害により、当時とはその姿を大きく変えた都市の地図もあり、絵はがきとともに、都市の移り変わりの様子を知ることができます。



絵はがき

「図書」は1304点。児童養護や社会事業をはじめとする福祉関連の書籍が多く、大正から昭和初期の雑誌には武田氏が寄稿した論文も掲載されています。その他、教育書、文学全集、児童書、和本等々、その充実ぶりに、精神面の訓育上、先人の業績を尊重しそれに学ぶということを重視する武田氏の強い姿勢が伺えます。



地図

「書類」の総数は420点を数え、日誌、金銭出納簿、台帳、名簿、塾舎建築の見積書、設計書、契約書の一切の建築書等、まさに塾の歴史を物語るものと言えます。中でも日誌は武田慎治郎氏が修徳館の館長に就任した大正2（1913）年10月8日から昭和11（1936）年12月31日まで、ほぼ欠かすことなく記されており、読み進めていくことにより、武田塾創設の経緯や塾の日常生活、高井田地区の情景等がわかってくるものと思われます。建築書は旧館、厚生館、積善館を建てるにあたって交わされた契約書等です。建物の細かな仕様や使用木材のサイズや材質も記され、また青焼きの設計図も添えられています。



図書

これら所蔵資料のうち、寄贈を受けたものについては一覧表でその内容を示しました。



書類

寄贈資料一覧表

生活道具 (47点)

2	16mm映写機	111	竿秤
13	トランク	112	灰皿 (4点の内、2点)
16	トランク	115	スプーン
17	トランク	117	氷削器
19	行李	118	櫛
20	行李	126	かご
30	衣紋かけ	127	焼き印等
41	くけ台	130	七輪
42	伸子張り一式	133	電球フード
46	魚捕り網一式	136	オルガン
47	魚釣り竿	148	鯉のぼり
49	雨傘	149	鯉のぼり
51	角火鉢一式	153	謄写版用具
62	火鉢	154	謄写版
63	炭入れ一式	157	ひのし
65	籐椅子	159	衣紋かけ
82	飾り一輪差し	165	羽子板
94	洗いかご	202	標準世界大地図
98	ランプ (2点)	266	ダルマストーブ
100	壺	267	ケシツボ
104	ガラス器	268	教材用そろばん
106	播り鉢一式	270	コリントゲーム
108	まな板	271	蚊帳吊り
109	ところてん突き		



トランク



菓子箱

図書 (52点)

335 頼山陽先生生誕地顕彰會記念講演録	1187 夏物の和服裁縫
372 柏原町青少年キャンプ指導者手引	1221 大正十三年婦人宝鑑
467 謄写印刷美術図案集	1222 女性のために
474 朝日ビルディング	1223 新実用お作法
476 大阪市庁舎新築記念	1224 家庭応用漬物煮物法
477 府庁舎・府会議事堂新築工事概要	1226 子供を良くする急所
481 支那事変と無敵皇軍	1229 生花の独習法
482 人類の進歩と調和	1231 割烹秘典
753 市岡中学校卒業記念帖	1232 四季の料理
754 堅下尋常高等小学校卒業記念写真帖	1233 醤油乃志をり
760 健康教育篇 堅下小学校	1249 聖徳記念絵画館壁画集
761 健康教育計画表 堅下小学校	1250 皇宮
802 ヨミカタ 一	1251 昭和八年陸軍特別大演習記念栄光録
803 唱歌帳	1252 大漢和辞典 卷一
804 エノホン 一	1253 大漢和辞典 卷二
812 必勝食生活の確立に就いて	1254 大漢和辞典 卷三
813 廃物利用五百種	1255 大漢和辞典 卷四
1027 私たちの大阪の研究	1256 大漢和辞典 卷五
1046 正式ハーモニカ奏法	1257 大漢和辞典 卷六
1163 家庭染色ひとり学び	1258 大漢和辞典 卷七
1176 裁縫秘術綱要	1259 大漢和辞典 卷八
1177 尋常小学校裁縫書第6学年	1260 大漢和辞典 卷九
1178 家庭節用	1261 大漢和辞典 卷十一
1180 結婚心得帖	1262 大漢和辞典 卷十二
1181 葡萄栽培書 五	1263 大漢和辞典 索引
1182 唱歌帳	1264 福井県大百科事典

地図 (1点)

- 1 信貴山名所圖繪

名簿 (2点)

- 25 柏原町役職員名簿
26 柏原町立学校園教職員一覧表

寄託資料

生活道具 (8点)

地図 (20点)

名簿 (24点)

写真 (636点)

写真乾板 (103点)

絵はがき (195種965点)

書類 (167点)

図書 (46点)

5、まとめにかえて

昭和48（1973）年には新しくコンクリート造の本館が建てられたものの、洋館風の木造建物は、まさに武田塾のシンボルであったといえるでしょう。八尾柏原地域では最後まで言われる貴重な大型の木造建築であっただけに、現地保存あるいは移築保存の方策を図らなければならないところでしたが、諸般の事情により叶うことができませんでした。記録保存にとどまったことは、反省と後悔の念以外に何もなく、今後建造物保存に対する取り組みに宿題を与えられたものと感じます。

一方で、前章に記したように質量共に豊富な資料が残されていたことには、大きな意味があります。それぞれが単独でのみ残っていたのではなく、たとえばある物品について、金銭出納簿からその購入日や金額がわかったり、また日誌に記された武田慎治郎氏の行動が写真として残っていたりすることから、物品間に密接な関連があり、相互に情報の裏付けを行えるという非常に貴重な資料であるといえます。所蔵資料の一部は寄贈及び寄託を受け、より細かな調査を進める準備が整いました。小市の地域史の一端がより明らかになるでしょう。

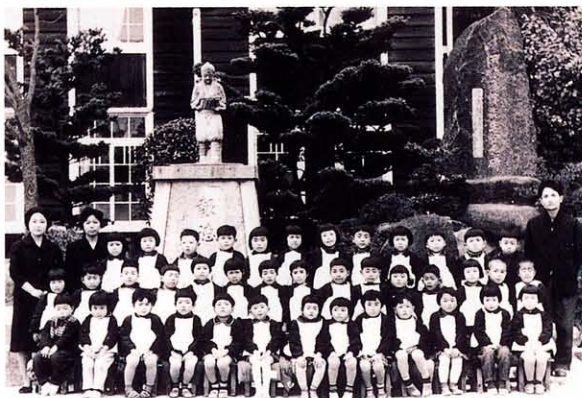
保育所の運営や地元に対して施設を開放していたこともあり、塾周辺には建物に愛着を持つ方々も多くおいでになります。そうした方々に対し、入館できる最後の機会として1999年7月31日には恒例となっている塾主催の納涼祭の一環として公開し、また9月5日には教育委員会が一般見学会を実施しました。芳名録によると納涼祭では76名、見学会では119名の来館者をお迎えしました。その際実施したアンケート調査では多くの感想が寄せられました。文面から、武田塾やその建物が如何に地域に根付いたものであったのかを伺い知ることが出来ます。その一部を原文のまま掲載し、本書のまとめとします。

・昭和30年頃のセピア色の写真を見せていただき、その中に昔の自分を見つけて驚きました。ずい分小さい頃の事なので部屋の様子などはよく覚えていないのですが、なつかしい気持ちになりました。その頃を思い出し昔にタイムスリップしたような気分させられました。

（女 49才 柏原市）

・初めて入らせていただき感激致しました。大ぜいの子ども達がこの塾より巣立って立派な社会人となっている事でしょう。昔の道具を大事に保存しておいて下さい。なつかしく見せていただきました。ありがとうございました。

（女 60才 柏原市）



行事点描

・古き良き時代の「足跡」としていつまでも大切に保存してほしいと思います。当時の心を後世に伝える確かな証として強く望みます。

(男 49才 神戸市)

・私は4歳から高井田に住んでいます。小学校は分校に通い、武田塾にも遊びに来させていただきました。20年近くたって、訪れてみてとても懐かしく思い出しました。木造校舎を訪れたのは初めてでしたが、20年見慣れた建物がなくなってしまうのはとてもさみしく思います。

(女 26才 柏原市)

・開設者の武田さん御夫妻の地域の児童方々へのあたたかい思いが又その間お世話された方々、巣立っていった子供さんや地域の方々のあつい思いがこの建物を通じて感ぜられる様でございます。来て良かったとほっとしております。

(女 53才 吹田市)

・また一つ柏原の歴史をつくっていたものが消えてしまい、大変残念です。

(男 36才 八尾市)

・50年も前の写真を見せて頂きなつかしく思います。少しも変わっていない武田塾に感心致しました。塾長室も見せて頂き今も武田きし先生がいらっしゃる様に思い出しました。

(女 72才 柏原市)

・小学生の頃、講堂にての日曜子供会が催され旧堅下一円から皆集まったのを思い出し、武田塾長先生についてはきおくがあまりありませんが、母堂先生きし先生のこと、積善かんでの玉つきなど思い出しました。案内ありがとうございました。

(男 80才 柏原市)

・なにもかもが古くてかっこよかった。

(男 14才 松原市)

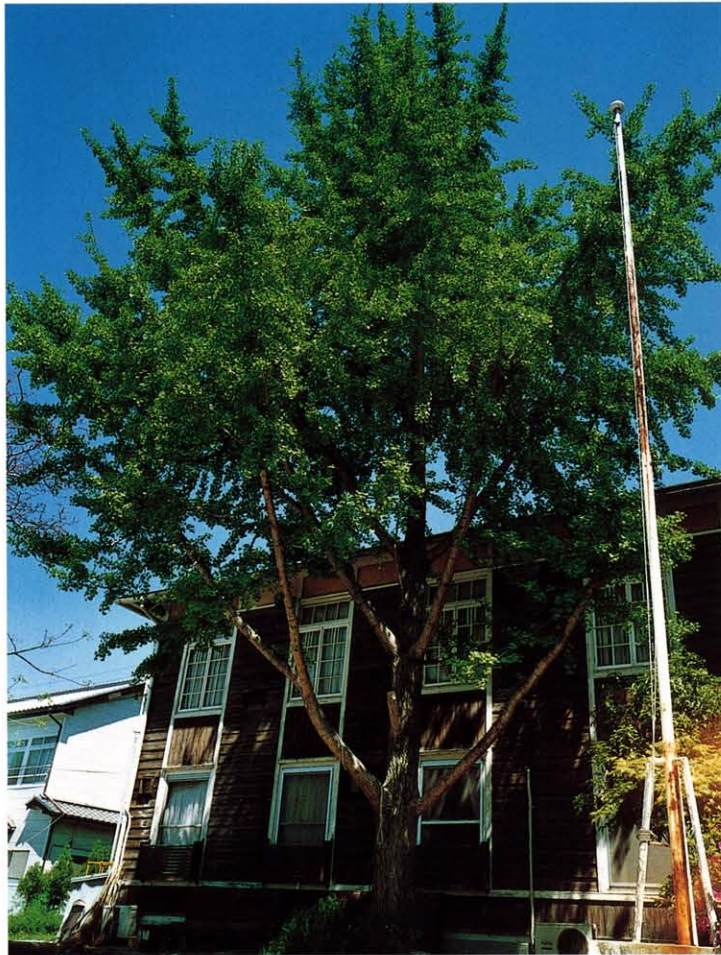


行事点描

報告書抄録

ふりがな	けんぞうぶつしょうさいちょうさがいほう							
書名	建造物詳細調査概報							
副書名	武田塾木造塾舎							
巻次								
シリーズ名	柏原市文化財概報							
シリーズ番号	1999-IV							
編著者名	細見久視 石井賢一 石田成年							
編集機関	柏原市教育委員会							
所在地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1-43							
発行年月日	2000 (平成12) 年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ただじゅく 武田塾	たかいだ 高井田	27221	*****	34度 34分 07秒	135度 38分 26秒	19990511～ 19990908	*****	詳細調査





建造物詳細調査概報

— 武田塾木造塾舎 —

編集・発行 柏原市教育委員会

印刷 (株)中島弘文堂印刷所

発行年月日 2000年3月31日